

メキシコ政治情勢（2月）

〈概要〉

【内政】

- ・ 1日、連邦議会の通常会期が開幕した。
- ・ 5日、メキシコ市憲法が公布された。

【外交】

- ・ 1日、ペニャ・ニエト大統領とラホイ西首相が電話会談を行った。
- ・ 1日、ビデガライ外相とボリス・ジョンソン英外相が電話会談を行った。
- ・ 6日、ペニャ・ニエト大統領とマクリ亜大統領が電話会談を行った。
- ・ 7日、治安・国防分野にかかる墨米政権閣僚の電話会談が行われた。
- ・ 8日、ビデガライ外相は訪米し、レックス・ティラソン米国務長官及びジョン・ケリー米国土安全保障長官とそれぞれ会談した。
- ・ 16日、ビデガライ外相は、G20外相会合に出席のため訪問中のドイツのボンにおいて、第9回MIKTA外相会合に出席した。
- ・ 16日～17日、ビデガライ外相はG20ボン外相会合に出席した。
- ・ 21日、ビデガライ外相は及びグアハルド経済相は、トロントにおいてフリーランド加外相と会談を行った。
- ・ 22～23日、ティラソン米国務長官及びケリー米国土安全保障長官が訪墨し、ビデガライ外相、オソリオ内相、ミード大蔵公債相、シエンフエゴス国防相等と会談を行った。また、両長官は墨大統領官邸においてペニャ・ニエト大統領を表敬訪問した。
- ・ 23日、連邦上院議会は、グティエレス駐米メキシコ大使及びベルナル駐中国メキシコ大使の承認プロセスをそれぞれ完了した。

〈内政〉

1. 連邦議会通常会期開幕

1日、連邦議会の通常会期が開幕。ペニャ・ニエト大統領は、上院議会に対し、米国から強制送還されるメキシコ人児童を想定し、海外で受けた教育及び学位の認可手続き、メキシコ国内の学校への入学手続きの簡素化を目的とした法案を、優先法案として提出した。

2. メキシコ市憲法の公布

5日、2015年12月に成立した連邦区（D.F.）政治改革に伴い、今般制定されたメキシコ市憲法が公布された。メキシコ憲法公布までの経緯は以下のとおり。

(1) 2015年12月、連邦区(Distrito Federal (D.F.), メキシコ市)を32番目の州(Entidad Federativa)にする連邦憲法改正案が可決された。同憲法改正案は2016年1月30日に発効し、連邦区(D.F.)は連邦政府から独立した自治権を有する州と同格に格上げされた。これに伴い、メキシコ市憲法が2017年1月31日までに制定され、同年2月5日までに公布されなければならない旨定められた。

(2) 2016年6月5日に実施されたメキシコ市憲法制定議会議員選挙によって選ばれた60名の議員、及び、連邦上院、下院からそれぞれ14名、大統領任命の6名、メキシコ市長任命の6名から選出される40名の議員を加えた100名から成るメキシコ市憲法制定議会が立ち上げられ、メキシコ市憲法案の作成作業が進められてきた。

(3) 2017年1月31日、メキシコ市憲法制定議会はメキシコ憲法案を可決、2月5日、メキシコ憲法記念日(なお、本年は公布100周年)にあわせ、メキシコ市憲法案はメキシコ市官報に掲載され、公布された。なお、施行は2018年9月17日となっている。

(4) 71条から構成されるメキシコ市憲法は、基本的にメキシコ憲法に定められた諸権利を認めているものであるが、メキシコ憲法には規定されていない尊厳死、LGBT(性的少数者)の諸権利、マリファナの医療目的における使用の権利などにかかる条項が含まれていることが特徴である。

〈外交〉

1. ペニャ・ニエト大統領とラホイ西首相の電話会談

(1) 1日、ラホイ西首相はペニャ・ニエト大統領に電話し、米新政権の方針に対峙するメキシコへのスペインによる連帯の意を表明した。ラホイ首相は、墨西は歴史的つながり、強固な人々のつながりを維持していると述べ、現情勢において、西政府はメキシコを支持する旨改めて述べた。また、ラホイ首相は、墨米の間で、建設的かつ尊重に基づいた対話ができる環境が存在すると願っている旨述べた。

(2) ペニャ・ニエト大統領は、西政府及び西国民のメキシコに対する連帯の意の表明に感謝の言葉を述べ、墨西二国間、イベロアメリカ諸国との関係、二地域間関係、マルチの分野においてメキシコに成果をもたらしてきた、深さ、多様性、広さに特徴づけられるスペインとの関係はメキシコにとって重要である旨述べた。

(3) 両首相は、2017年は、近年の二国間関係を特徴づけてきた活力を、墨西国交樹立40周年の枠組みの中で取り戻す良い機会であることで一致した。また、2017年は、両国の外相レベルの第12回二国間委員会の開催がマドリッドで予定されている。

2. ビデガライ外相とボリス・ジョンソン英外相の電話会談

(1) 1日、ビデガライ外相は、ボリス・ジョンソン英外相と電話会談を行った。両外相は、優れたレベルの政治対話及び経済、教育、文化における交流に特徴づけられる墨英の戦略的關係は、最良の時期にある点で一致した。

(2) 両外相は、墨英二国間關係の強化、深化に引き続き取り組んでいく責任について改

めて述べた。とりわけ、両者は、英国のEU離脱のプロセスが許す限り早急に、墨英自由貿易協定の交渉を行うことへの関心を示した。

(3) ビデガライ外相は、墨英の協力関係を分析し、今後の計画を話し合うためにボリス・ジョンソン英外相に訪墨するよう招待した。

3. ペニャ・ニエト大統領とマクリ亜大統領の電話会談

(1) 6日、ペニャ・ニエト大統領とマクリ亜大統領が電話会談を行った。マクリ亜大統領は、墨亜両国の緊密さ及び友情を示すとともに、米新政権の方針を前に、国民及び亜政府によるメキシコへの連帯の気持ちを表すために、ペニャ・ニエト大統領と電話会談を行った。

(2) 電話会談の中で、両首脳は、2016年7月28日～29日に実施されたペニャ・ニエト大統領のアルゼンチン公式訪問によって強化された墨亜二国間関係は良好な状態にあることを確認し、あらゆる二国間関係のテーマに関し、緊密に取り組んでいく意思を有している旨述べた。

(3) 特に、両首脳は、現在両国間で行われている貿易交渉に関し、二国間のつながりを深化させ、二国間の自由貿易の拡大を可能とする合意を目指した交渉を継続していく意思を確認した。

(4) マクリ大統領は、墨米関係に関し、メキシコに対する支持を表明するとともに、墨米の間で両国にとって有益な合意が達成されることを願っている旨述べた。ペニャ・ニエト大統領は、亜政府及び亜国民のメキシコに対する連帯の意に感謝の言葉を述べるとともに、墨政府としては、主権国家同士の建設的かつ尊重に基づいた対話を通じて、米政権との相違を解決する考えであることを改めて述べた。

4. 治安・国防分野にかかる墨米政権関係の電話会談

7日、オソリオ内相が、ジョン・ケリー米国土安全保障長官と、シエンフエゴス国防相とソベロン海軍相が、ジェームズ・マティス米国防長官と、それぞれ電話会談を行った。

(1) オソリオ内相とジョン・ケリー米国土安全保障長官の電話会談

(ア) 7日、オソリオ内相とジョン・ケリー国土安全保障長官は電話会談を行い、墨内務省と米国土安全保障省が共有し、墨米二国間に関係する幅広い議題に関して、意見交換を行った。

(イ) 電話会談の中で、両者は、墨内務省と米国土安全保障省との間の協力の重要性及び墨米国境両側の市民の安全及び福祉を保証することを目的に達成してきたこれまでの進捗を認めた。この意味において、両者は緊密な連絡を維持し、建設的な関係を強化することで一致し、同時に、オソリオ内相とジョン・ケリー国土安全保障長官及びそのチームが、二国間の議題に関し直接かつ広く議論するために、近くメキシコ市で会合を行うことで合意した。

(2) シエンフエゴス国防相及びソベロン海軍相とジェームズ・マティス米国防長官の電話会談

(ア) 7日、国防省及び海軍省は、シエンフエゴス国防相及びソベロン海軍相が、ジェームズ・マティス国防長官と電話会談を行ったことを発表した。シエンフエゴス国防相及びソベロン海軍相は、ジェームズ・マティス国防長官が第26代米国防長官に任命、承認されたことに祝意を述べた。

(イ) マティス国防長官は、防衛関係の強化、共通の利益を有する分野における協力の改善に対する二国間の責任について述べるとともに、メキシコが、2017年米州防衛評議会の議長国、2018年米州国防大臣会議（Conferencia de Ministros de Defensa de las Américas）の開催国を務めることに触れ、メキシコの地域及び国際社会におけるリーダーシップの増大を認めた。また、2017年、メキシコが米州国防会議の開催地に名乗り出ていることに対し、感謝の意を示した。

(ウ) 三者は、カナダとの共同で、防衛にかかる共通の課題に取り組んでいく責任を表明し、本年4月ワシントンにおいて、第3回北米防衛相会議を開催し、その中で、北米地域の防衛、米州大陸における協力、人道支援及び災害時における救助、PKO活動支援を取り扱うとともに、軍隊における人権及びジェンダーの公平に関する協力の機会を模索することで合意した。

5. ビデガライ外相の訪米

(1) 8日、ビデガライ外相は訪米し、レックス・ティラソン米國務長官及びジョン・ケリー米国土安全保障長官とそれぞれ会談した。両会談において、相互尊重に基づく建設的な形での墨米二国間関係を取り扱い、移民、治安にかかるテーマを中心に、墨米両国の関係機関の間に存在する協力メカニズムに関し議論した。

(2) ティラソン國務長官との会談において、ビデガライ外相とティラソン國務長官は、両国の間に存在する広く一般的に知られている相違を解決するために、引き続き取り組んでいく両国の責任を改めて表明した。

(3) ケリー国土安全保障長官との会談において、ビデガライ外相は、在米メキシコ人の人権及び市民権を尊重することの重要性について述べた。

(4) 両会談において、ビデガライ外相は、メキシコ政府は、在米メキシコ人への応対及び移民及び査証プロセスに関する最新の情報を在米メキシコ人コミュニティに広報するために、領事保護を強化する旨述べた。また、同外相は、国家主権に対する完全な尊重という原則の下、墨米両国にとっての利益となる様々なテーマに関し、メキシコは米国と引き続き協力していく意思を有している旨改めて述べた。

6. ビデガライ外相とグリーンспан・イベロアメリカ事務局長の会談

(1) 13日、ビデガライ外相は、墨外務省にて、グリーンспан・イベロアメリカ事務局長と会談した。グリーンспан事務局長は、米政権との関係に関し、メキシコへの支持を表明するとともに、墨米両国の相違が、対話と協調によって解決することを期待する旨述べた。

(2) ビデガライ外相は、グリーンспан事務局長に感謝の意を述べた。さらに、同外相

は、イベロアメリカ諸国の市民に具体的な利益を与えてきた教育、科学、文化、若者、社会統合（cohesion social）等 29 の協力プロジェクトの重要性について述べ、イベロアメリカ事務局を強化し続けるメキシコの責任を改めて表明した。

（3）両者は、2014年墨ベラクルスで開催されたイベロアメリカ・サミット以降の進捗に関し、2016年10月コロンビアのカルタヘナで開催され、イベロアメリカ・サミット参加国がそれぞれの国の若者の社会参加及び発展を促進するための具体的な約束を設定した若者の国際協定（Pacto Internacional de Juventud）を採択した第25回イベロアメリカ・サミットの成果に焦点を当て、意見交換を行った。

7. ビデガライ外相と中米北部三角地帯外相との外相会談他

（1）中米北部三角地帯外相との外相会談

（ア）13日、ビデガライ外相は、ラ米・カリブ核兵器禁止機構（OPANAL：トラテロルコ条約実施機関）第24回会合及びトラテロルコ条約50周年記念式典に出席のため訪墨したマルティネス・エルサルバドル外相、モラレス・グアテマラ外相、アグエロ・ホンジュラス外相代行と外相会談を行い、2016年11月グアテマラで開催された墨及び中米北部三角地帯（エルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラス）外相会談において取決めされた移民対策、情報交換及び領事サービスの強化に係る連携・協力のイニシアティブにかかる対話を継続した。4外相は、今日の情勢及びあらゆる場所における移民の人権保護を強化することを目的としてとり得る行動について意見交換を行った。

（イ）ビデガライ外相は、総合的な観点及び共有する責任から、移民の流動を適切かつ安全に管理し、在米メキシコ人を保護し、メキシコに帰還するメキシコ人を支援することを目的にメキシコが行っている政策に関し紹介した。また、同外相は、（墨及び中米北部三角地帯が）共同で取り組んでいくことの重要性について述べるとともに、インフラ、エネルギー統合、貿易の簡素化、競争力、食の安全等のプロジェクトを通じて中米北部三角地帯の発展に協力し続けること及び移民の構造的な原因に対応していくメキシコの姿勢について述べた。4外相は、今後も対話及び共同での取り組みを継続していくことで一致した。

（2）モラレス・グアテマラ外相との外相会談

（ア）13日、ビデガライ外相は、モラレス・グアテマラ外相と外相会談を行った。両外相は、両外相が議長を務め、移民、開発、環境、エネルギー、国境インフラ等の二国間の議題について話し合う墨グアテマラ二国間委員会の重要性について話し合い、本年前半に同委員会の第12回会合を行うことで合意した。

（イ）ビデガライ外相は、モラレス・グアテマラ大統領がペニャ・ニエト大統領を2017年中にグアテマラに訪問するよう招待したことに感謝の言葉を述べ、モラレス・グアテマラ外相との間で事前の準備を行うことで一致した。ペニャ・ニエト大統領のグアテマラ訪問日程は、近く決められる。

8. ビデガライ外相とマルコーラ亜外相の外相会談

（1）13日、ビデガライ外相は、トラテロルコ条約50周年記念式典出席のため訪墨し

たマルコーラ亜外相と外相会談を行った。両外相は、現在の世界情勢に関し意見交換を行い、あらゆる分野における二国間のつながりを緊密化していく意思を改めて表明した。かかる目的のため、2016年のペニャ・ニエト大統領のアルゼンチン公式訪問の際に合意された約束の進捗具合に関し、確認を行った。

(2) 経済分野に関し、2月6日にペニャ・ニエト大統領とマクリ亜大統領が電話会談した際と同様に、両外相は、現在両国間で行われている貿易交渉に関し、二国間関係を深化させ、二国間の自由貿易の拡大を可能とする合意を目指した交渉を完了させる重要性、及び、太平洋同盟とメルコスールの経済関係を強化する重要性について述べた。

(3) ビデガラ外相は、ペニャ・ニエト大統領がマクリ亜大統領をメキシコへ招待する旨述べ、マルコーラ外相と、本年中に両大統領にとって実現可能な日程を調整する旨合意した。

9. 第9回MIKTA外相会合

(1) 16日、ビデガラ外相は、G20外相会合に出席のため訪問中のドイツのボンにおいて、ルトノ・インドネシア外相、尹炳世韓国外交部長官、チャヴシュオール・トルコ外相、Gray Quinlan 豪外務次官と第9回MIKTA外相会合に出席した。

(2) 今般の外相会合において、本年、MIKTAの活動の調整役を務めるトルコのチャヴシュオール外相は、本年のMIKTAの活動の指標となる優先事項を提案した。その中には、経済及び通商協力、世界における移民及び難民の状況、持続可能な発展、テロとの闘いにかかる協力が含まれる。

(3) 参加者は、国際社会における課題及び機会について意見交換を行うとともに、北朝鮮による核実験を非難し、国連及びG20のマルチの枠組みにおける行動への支持、及び、引き続き世界規模で自由貿易を強化する意思を表明した。

10. ビデガラ外相のG20ボン外相会合への出席

16日～17日、ビデガラ外相はG20ボン外相会合に出席した。

(1) 16日

(ア) ガブリエル独外相との会談

ビデガラ外相は、ガブリエル独外相と今日の世界情勢に関し意見交換を行った。両外相は、ドイツによるメキシコへの投資及び二国間関係強化の重要性について述べた。また、両外相は、墨独二国間関係の様々なテーマに関しフォローアップを行うために、本年メキシコ市で第二回二国間委員会を開催することで合意した。

(イ) ボリス・ジョンソン英外相との会談

ビデガラ外相は、ボリス・ジョンソン英外相と会談し、両外相は、墨英の関係を特徴付ける高いレベルの政治対話及び二国間関係の力強い発展について述べ、世界情勢を前にしたメキシコ及び英国のための展望に関して意見交換を行った。

(ウ) ルトノ・インドネシア外相との会談

ビデガラ外相は、ルトノ・インドネシア外相と会談し、両外相は、移民及び貿易に関

するテーマについて意見交換を行い、かかるテーマに関し地域毎に様々な合意を推進することの重要性について述べた。両外相は、政治、協力、経済分野に関するテーマでフォローアップを行うために、墨インドネシア間に設置されているメカニズムを近く開催することで合意した。また、両外相は、MIKTAにおける対話及び太平洋同盟とASEANの対話を促進し続けることの重要性を確認した。

(エ) G20外相会合第1セッション

「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の実行に向けたG20加盟国の貢献について話し合われた第1セッションにおいて、ビデガライ外相は、メキシコにとって同アジェンダは国家としての責務であり、国連のミレニアム開発目標の実行におけるメキシコの経験は、国際的観点を有しながら地域に範囲で2030アジェンダを実行していく見本となる旨述べた。また、ビデガライ外相は、中米北部三角地帯（グアテマラ、エルサルバドル、ホンジュラス）の加速的な発展を促進すると同時に、移民、国境の治安等の問題に対応するためのプロジェクトに資金を拠出する中米北部三角地帯構成国の繁栄のための同盟を例に挙げ、同様の共同協力プログラムの重要性について述べた。

(2) 17日

(ア) G20外相会合第2セッション

「複雑な世界における平和の維持（平和の維持）」についてG20加盟国外相の間で意見交換が行われた。ビデガライ外相は、経済的社会的要因に対応することによって紛争を予防することに主眼をおいた、メキシコが議長国を務める持続可能な平和の友好グループ（Grupo de Amigos de la Paz Sostenible）に関して述べた。メキシコにとって、持続可能な平和のコンセプトは、紛争を予見し、予防することのみを意味するのではなく、経済及び社会発展を通して、紛争原因となる要因を撲滅することも意味しており、治安、司法の適用、人権の尊重も考慮される。

(イ) ダスティス西外務・協力相との会談

ダスティス西外務・協力相との外相会談において、ビデガライ外相は、墨西が有する友好的な歴史上のつながり及び両国の間に存在する戦略的パートナーシップの重要性について述べた。両外相は、今日の国際情勢について意見交換を行い、様々な分野における協力及び経済的パートナーシップを引き続き促進することで一致した。同時に、ビデガライ外相は、二国間関係の様々なテーマを評価し、深化させ促進するために、ダスティス外務・協力相をメキシコに招待した。

(ウ) モゲリーニEU上級代表との会談

ビデガライ外相は、モゲリーニEU上級代表と会談した。両者は、世界情勢及び今日の課題に対応するための選択肢について会話した。また、両者は、メキシコとEUの関係、戦略的パートナーシップ、両社会が共有する価値観の重要性について述べた。さらに、両者は、本年中にそのプロセスを完了することを目的に、メキシコとEUによる国際協定の近代化にかかる交渉を進める責任を改めて表明した。

(エ) ジョン＝マルク・エロー仏外務・国際開発相との会談

ジョン＝マルク・エロー仏外務・国際開発相との会談において、両外相は、墨仏二国間

関係の主要テーマの見直しを行い、ペニャ・ニエト大統領のフランス公式訪問（2015年7月）の際に署名された合意に対する適切なフォローアップを引き続き行うことで一致した。また、両者は、墨仏両国が促進するマルチ外交の重要性について述べた。さらに、フランスは、EUとメキシコによる法的枠組みの近代化に関し、フランスの支持を表明した。

（オ）王毅中国外交部長との会談

王毅中国外交部長との会談において、両者は、墨中の総合的な戦略的パートナーシップの枠組みにおける協力をこれまで強化してきた旨で一致した。両者は、中国による最近のメキシコへの投資及びメキシコ農畜産物の中国市場への輸出開始の重要性について述べた。さらに、両者は、二国間の観光及びビジネスの増加を促進するために航空アクセスを改善することの重要性について述べた。また、最近の保護主義の脅威の高まりに対し、両者は、自由貿易に対する責任を改めて表明し、墨中間の自由貿易の増加を引き続き促進することで一致した。

（カ）ジョゼ・セーハ伯外相との会談

ジョゼ・セーハ伯外相との会談において、ビデガライ外相は、今日の国際情勢においてブラジル政府がメキシコに対して示した支持及び連帯に対し、感謝の意を述べた。両者は、墨伯二国間のテーマ及び地域のテーマについて会話し、今後10年間で、両国間の貿易額を2倍にするという大統領の公約を可能とする経済補完協定（Acuerdo de Complementación Económica）第53号の拡大及び深化のための交渉についての対話を引き続き強化することを約束した。セーハ外相は、ビデガライ外相をブラジルに招待した。

（キ）バラクリシュナン・インドネシア外相との会談

バラクリシュナン・インドネシア外相との会談において、両外相は、墨インドネシア二国間の活発な政治対話について言及し、経済及び投資を中心とした二国間のあらゆる協力関係をこれまで促進してきたことに対する祝意を述べた。今次会談において両者は、協力関係を強化するために引き続き取り組むことを約束し、二国間の貿易を増加させるための代案を模索することで一致した。バラクリシュナン外相は、太平洋同盟を、インドネシアとラ米諸国との関係強化のために活用することの重要性について述べた。

（ク）ボルゲ・ブレンデ・ノルウェー外相との会談

ボルゲ・ブレンデ・ノルウェー外相との会談において、両者は、国際社会の課題について意見交換を行い、メキシコと欧州自由貿易連合の自由貿易協定の近代化に向けた交渉を進めることに対する責任を改めて表明した。

11. ビデガライ外相・グアハルド経済相とフリーランド加外相との会談

（1）21日、ビデガライ外相は及びグアハルド経済相は、トロント（加オンタリオ州）においてCCA（Canadian Council for the Americas）が後援したイベントの機会に、フリーランド加外相と1時間45分にわたり会談を行った。

（2）3閣僚は、両国の中間層の成長の引き上げるための戦略、移民問題、北米地域の競争力等について議論した。

(3) 3 閣僚は、NAFTAがカナダ及びメキシコにとって重要であることを確認するとともに、墨加二国間関係を更に強化するために引き続き取り組んでいくことを約束した。

1 2. ティラソン米務長官及びケリー米国土安全保障長官の訪墨 1

22～23日の日程でティラソン米務長官及びケリー米国土安全保障長官が訪墨し、ビデガライ外相、オソリオ内相、ミード大蔵公債相、シエンフエゴス国防相等と会談を行ったところ、同23日昼に行われた墨米共同記者発表における各閣僚の発言概要は以下のとおり。また、同共同記者発表の後、両長官は墨大統領官邸においてペニャ・ニエト大統領を表敬訪問した。

(1) ビデガライ外相

(ア) 今回の訪問は、墨米関係が複雑な時期に行われた。メキシコには、米国政府によって発表された政策に対する苛立ちがあるのは事実である。

(イ) 通商問題については今回は取り上げず、数ヶ月置いておきたい。

(ウ) 墨米間の対話・交渉においては、移民、治安、通商等全てのテーマが含まれる包括的なものであるべき。

(エ) 米国が意図している墨以外の国籍を有する移民をメキシコに強制送還することは、法的に不可能であり、かかる一方的措置を受け入れることはできない。また、米国に対し、米国内の墨移民の人権の尊重に対する懸念を伝達した。

(オ) 過去の時代とは異なり、現在の米国の不法移民の多くは中米、特に、グアテマラ、ホンジュラス及びエルサルバドル出身者であって墨出身者でなくなっているところ、米国に対し、中米の安定、発展等の課題について対応することを依頼するとともに、墨米に中米諸国を加えた建設的な対話を行うことで一致した。

(カ) 墨米間では、声明ではなく行動こそが重要である。

(2) ティラソン米務長官

(ア) 自分はテキサス州で生まれ、人生の多くを同州で過ごしてきたので、メキシコやメキシコ人には大変馴染みがある。

(イ) 今回の会合で、米墨は両国の包括的なテーマを議論し、お互いの懸念について注意深く意見交換した。その中には、一致できるものもあれば、そうでないものもあった。

(ウ) 両国は、エネルギー、合法的移住、治安、教育分野の交流等の面で緊密に協力していくことで一致するとともに、メキシコから米国へのテロリストの流入や麻薬の密輸、米国からメキシコへの武器の密輸や不法な現金の移動を防止することの重要性について一致した。

(エ) 米墨は、現在両国が行っているメキシコ南部国境地域の管理強化及びグアテマラ、ホンジュラス、エルサルバドルへの支援を通じた不法移民削減に向けた協力について認識した。

(オ) 両国は、かかる米墨間の協議メカニズムを継続・強化することで一致した。

(3) オソリオ内相

(ア) 今回の会合において、メキシコは米国に対し、米国による大規模な移民の強制送還

及び墨以外の国籍を有する移民をメキシコに強制送還することに対する懸念を伝えた。

(イ) 墨米間では、墨米国境地域における全ての問題が取り上げられるべきであり、協議され、合意が目指されるべきである。治安問題は両国に影響する問題であり、両国間の人の移動も重要なテーマである。

(ウ) 移民の米国から祖国への帰還は、移民の人権に配慮しつつ秩序だった形で行われるべき。

(エ) 米国からメキシコには歴史的に秩序だった帰還の手続きが存在しており、メキシコから中米諸国についても同様である。

(4) ケリー国土安全保障長官

(ア) 米国は、自国の国内法に従って不法移民を個別に精査し、その人権に配慮しつつ司法手続に従って強制送還を実施する(犯罪歴を有する者が優先的に強制送還される)が、不法移民の大規模な強制送還を行うことはない。また、強制送還は秩序だった形で行われ、その過程において軍事力を用いることもない。

(イ) 「不法移民の大規模な強制送還」や「軍事力の行使」についての噂は、メディアが正しく報道していないことによって生じたものである。

13. ティラソン米務長官及びケリー米国土安全保障長官の訪墨2

23日、ペニャ・ニエト大統領は、22～23日の日程で当地を訪問したティラソン米務長官及びケリー米国土安全保障長官と墨大統領府において会談を行った。また、ペニャ・ニエト大統領とティラソン米務長官及びケリー米国土安全保障長官との会談に先立ち、閣僚会合が行われた。

(1) ペニャ・ニエト大統領との会談

(ア) 23日、ペニャ・ニエト大統領は、ティラソン米務長官及びケリー米国土安全保障長官を大統領府に招き、会談を行った。同会談には、墨側からオソリオ内相、ビデガラ外相、グスマン大統領府長官、サダ墨外務省北米担当次官他が、米側から、両長官に加え、ジェイコブソン米大使他が参加した。

(イ) ペニャ・ニエト大統領は、①今回の会談は両国の対話の強化が極めて重要な時に行われている、②両国政府は両国の主権を常に尊重しつつかかる対話を継続していく意思を有している、③メキシコは強固且つ自国の利益に資する立場をもって包括的な形で交渉していく、④墨政府にとって、米国内のメキシコ人の保護及び人権の尊重が最も高い優先事項である旨述べた。

(ウ) ビデガラ外相は、今次閣僚会合で取り上げた課題及び今後何ヶ月も続く本件交渉の第1回目の交渉結果について報告するとともに、米両長官はプロ意識が高く、建設的であった旨述べた。

(エ) 会談の最後にペニャ・ニエト大統領は、トランプ政権が誕生して直ぐの段階で両長官がメキシコを訪問したことは、墨米両国が、治安、開発、繁栄を向上させる建設的な関係を構築する意思を有していることの証左である旨述べた。

(2) 閣僚会合

(ア) 23日、墨米両国は墨外務省において、1月27日のペニャ・ニエト大統領とトランプ米大統領との合意をフォローする目的の下、二国間の課題について見直すための会合を行った。墨側はビデガライ外相をヘッドに、ビデガライ外相、オソリオ内相及びミード大蔵公債相が出席し、米側は訪墨したティラソン國務長官及びケリー国土安全保障長官並びにジェイコブソン米大使が出席した。

(イ) 閣僚会合においては、二国間の種々の課題について議論され、相互に関心を有する課題についての協力を進め、立場の異なる問題についての解決を図るとの両政府の意思が示された。メキシコは、米国との対話・交渉が、移民、治安及び通商問題を含む包括的なものであるべきと考えており、ビデガライ外相は、米国が両国にとって利益となる合意に達するために引き続き取り組んでいく考えを有していることについて謝意を表した。

(ウ) 移民問題についてビデガライ外相は、米国内のメキシコ人の権利の尊重についての懸念を表明するとともに、ある政府が他国に対して影響を与える決定を一方的な形で行うことの不法性について議論し、かかる両国に影響を与えることが不可避な決定は、両国の対話や合意に基づくものであるべきである旨米側に主張した旨述べた。

(エ) 移民問題に関し、墨米政府は、移民の管理のみでなく、かかる移民問題の真の原因である地域及び中米の発展及び安定について共通の責任を果たさなければならないことで一致した。両国は、数ヶ月後に、墨米に加え、中米北部三角地域諸国（エルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラス）及び地域の他の関係国の参加を求めて、中米の発展のために、建設的且つ地域の共同責任を果たすための会合を開催する必要があることで一致した。

(オ) 閣僚会合においては、治安、犯罪組織対策、麻薬密輸についての協力メカニズムについても議論がなされた。この点についてオソリオ内相は、インテリジェンス間の交流、米国からの武器の密輸や不法な資金のメキシコへの流入及び両国国民の安寧を脅かす犯罪組織への流入を遮断する必要がある旨述べた。

(カ) 米両長官は、シエンフェゴス防衛相及びソベロン海軍相とも会談し、ビデガライ外相、ジェイコブソン米大使も同席した。

(キ) 両国閣僚は、墨米関係が両国にとって重要であることを確認し、通商、投資、競争力、移民、領事保護、治安、法執行、国境インフラ、税関等の種々のテーマにおける関係を支える土台が強固であることを確認した。

(ク) 両国閣僚は、今回の第1回会合は生産的なものとなったと認識し、かかる対話を今後も恒常的に行うことで合意した。次回の会合は、数週間後にワシントンにおいて行われる予定。

14. 駐米メキシコ大使及び駐中国メキシコ大使の連邦上院議会における承認

23日、連邦上院議会は、ペニャ・ニエト大統領によって任命されていたヘロニモ・グティエレス・フェルナンデス（Geronimo Gutierrez Fernandez）駐米メキシコ大使及びホセ・ルイス・ベルナル・ロドリゲス（Jose Luis Bernal Rodriguez）駐中国メキシコ大使の承認プロセスをそれぞれ完了した。承認プロセス完了後、両大使は、連邦上院議会本会議場で宣誓を行った。

